

彼岸供養も終わり、桜咲き春爛漫の自然はなんと美しいものでしょう。劉希夷の詩に「年々歳々花相似、歳々年年人不同」とあり、花咲く四月は変動の時、花もきつと我々の成長を見守っていてくれることでしょう。花には蝶がつきものですが、先祖として、軽く値しなわれる水子霊も御座います。彼岸法要がすみ、いつも思えますのは水子の処遇の悲しさです。懺悔の気持ちに深く心に刻む方が少ないのです。親子といえども、元を正せば、因縁の悪さが、その処遇を招くのですが、水子は殺人に出会った被害者なのです。墮胎・中絶手術は医者が行うも両親の承諾なくして手術はしません。胎児は母の体内に生活し、自らの意思表示は出来ないのです。この世に日の目を見る事無く、死を選択される怒り悲しみは如何ばかりか、想像に絶するものがあると思います。人間として生まれ自死・事故等により死を強制的に与えられる人々も少なくないのです。が**私は不慮の出来事で懐妊したとは思いたくないのです**。自然の法則に従って生きてほしいものです。最近では親が子を殺したり、夫が妻を、妻が夫を、子が親を殺す尊属殺人が起きています。**世の中の歪、信心の欠落か、家族の歪は一体どこにあるのか。ご先祖様の嘆き悲痛の叫び声が聞こえませんか**。より丁寧に水子霊の供養をしなくてはと思います。お釈迦様は最後の説法で**多欲の人は利を求むること多きが故に苦悩も亦多し**。少欲の人は無求無欲なれば即ちこの患いなし。少欲の能く諸々の功德を生ずるをや。亦復諸根の為に牽かれず。諸々の苦悩を脱せんと欲せば。當に知足を觀ずべし。知足の法は即ち是れ富樂安穩の處なり」との法を説かれました。私が思いますには吾が**身の丈を知る事が重要**であり、善悪を見極め進むべき指針とする基本であると思います。私は多欲の人は目的に向かって急坂を上るが如くして、途中で挫折しがちな事は否めません。多欲の人より急勾配でも少欲の人は一段一段の階段を上るが如くにして失敗する事はほとんど考えにくいのです。坂と階段では大きく異なります。急坂は身を休める場所がありません。余裕が無いので目違い、聞き間違い、言い間違いを起こしやすく自分を大切にしくく、身の過ちに気が付く余裕がもてません。階段は必ず平らな場所があり無理せず休むことができます。**体力気力の維持が可能**です。即ち、過去を振り返り反省することも容易で、自分を大切にできます。目的目標に向かって誰しも進むわけですので、パワーの維持管理アップが必要になります。教育で言えば六・三・三・四と節があり、又、一年は三六五の階段があると言えます。その一歩一段が初心貫徹の道場・研修の場です。隅から隅まで綺麗に整理整頓できれば過ちが少なく進みやすく、自己の生育に役立つのです。身の丈が自ずと分かると言うことです。一つ一つずつの**成就積み重ね**が大願の成就に繋がっていきます。お釈迦様の説かれた意味が解る事と存じます。成就の為には**知足 智慧**の啓発が大事になります。**判断力が極めて重要**になります。取り返しのない失敗を防ぐための**智慧を養い**ましょう。気を緩めるとすきを狙って、邪氣が魔を誘導し牙をむいて襲い掛かってきます。

前号の続き「ウ」患いもあり、嬉しきこともあり、世の無常迅速をわきまえ、**え**縁の良し悪し、仏法で学び、仏法に従う、**お**往生極楽の道 西諦八正道)もって知るべし、**時機こそ大切なり**。

三十年四月一日

善書善人院油掛地藏尊